

第42回・第3期第23回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 議事録	
開催日時	令和元年9月9日（月）18：30～21：00
開催場所	宝塚市役所3階 特別会議室
次 第	1 開 会 2 議事録 協働のまちづくり促進委員会（第41回・第3期第22回）議事録 3 企画経営部からの説明事項 (1)宝塚市公共施設（建物施設）保有量最適化方針について（施設マネジメント課） 4 議 事 (1)新たに制定する条例の内容等について ア 作業班からの報告 イ 素案修正案について (2)令和元年度 宝塚市協働の指針市民説明会について (3)第3期まとめについて 5 その他 6 閉 会
出席委員	久会長、足立委員、飯室委員、成瀬委員、加藤委員、平石委員、石谷委員、古村委員、中山委員、野田委員、檜垣委員、牟田委員、喜多委員、光村委員、藤本委員、立花委員
開催形態	公開（傍聴人1人）

1 開会

事務局から、本日の出席者は12名、欠席者は3名であること、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していることを報告した（4名が遅れて出席されたため、最終出席者は16名）。

2 議事録

「協働のまちづくり促進委員会（第41回・第3期第22回）議事録」の内容が確認され、議事録とすることが承認された。

3 企画経営部からの説明事項

(1) 宝塚市公共施設（建物施設）保有量最適化方針について（施設マネジメント課）

施設マネジメント課より、宝塚市公共施設（建物施設）保有量最適化方針について説明があった。意見交換の内容は以下のとおり。

ア 学校教育施設も対象となるのか。

イ （市）対象となる。本編には、全296施設の評価などについても記載している。

- ウ いくつかの建物が無くなることによって避難所の再配置が必要になってくるのかなという印象を持った。
- エ 今後のためにお考えいただきたいのは、これからの地域との話し合いがポイントになるということ。地域の皆さんと協働で行い、しっかりとした組み立てを行うことが大切だと思う。
- オ (会長) 吹田市の事例で、小学校が廃校となることに決まった際、その学校の生徒の親御さんが一番反対されていた。そして、PTAの方々が毎月開催される地域交流会に出席し、「廃校に反対する運動をしているので応援してください」と言ったが、地域交流会の方の何人かが、「心情的には理解できるが、統計的・論理的に考えると子供の数が減っているのだから市が小学校を廃校にすることも理解できるのではないかと」言った。その結果、PTAの方も納得するに至った。このように、施設利用者はその施設に愛着を持っているため残してほしいという意見が強い。その場合、客観的な立場の方に入ってもらい、地域としてどういう結論を出すのかということも議論してもらった方がよい。その議論を行うための一つの場としてまちづくり協議会があると思う。色々な方の意見を総合的に聞く機会を市と地域が使いながら協働で進めてもらった方がよい。まずは、事前にどういう場を作っていけばいいのかという相談を地域の方々と行ってもらいたい。まちづくり協議会や自治会の方は地域の状況をご存じなので、どういう展開をしていけばいいのかを知っている。
- カ 公立の幼稚園の方が安く、私立の幼稚園から人が戻ってくることも考えられる。そういう点を考慮しているのか。
- キ 私の地域では、小学校の統合について、子どもにとって一番良い方法を探そうということで市が出してくれた資料を基に1年かけて地域でも検討し、統合はやむを得ないという結論が出た。住民を巻き込むやり方をすれば住民も納得すると思う。
- ク (会長) 地域の協議会がどのような立場で入っていけるかということについて、豊中市では、駅前商店街の方は、商店街の方が買い物に使える駐車場がほしいという意見を出された結果、小学校の地下に駐車場を作るという案を市役所が出した。その結果、PTAの方々が交通安全上いかななものかと安全運動始めた。そして、PTAの方は、まちづくり協議会に協議会として賛成なのか反対なのか意思表示をしてほしいと迫った。その際、協議会の会長は、協議会はあくまでも協議の場なので、協議会としての意見は言えない、協議会は中立ですとおっしゃった。その中立の場面で皆さんで話し合って結論出しませんかという話をした。地域でニュートラルな方がいないと、ある一定の方向に組織が持っていこうとしたとき、それにそぐわない方の居場所がなくなる。賛成反対が自由に言える場面を作してほしい。そのためにはある組織がどちらかの方向性に持っていこうとしないことも必要。
- ケ 色々な地域の施設がかなり入っているが、どういう形でいつごろから始めるのかのスケジュールを教えてほしい。
- コ (市) 6.2%減らすことについては総合管理計画で2年前に各まちづくり協議会に対

しても説明を行わせていただいた。それぞれの取組については所管課で協議を進めている状況である。

サ 高司5丁目建物とはどの建物のことか。

シ (市) 自動車整備工場のこと。都市計画道路用地として市が所有している。

ス (会長) 新たな機能が必要になってくることもある。地域自治の拠点としての建物など、減らした部分の土地を新たな機能として使っていく検討も開始していく方向でお願いしたい。

4 議事

(1) 新たに制定する条例の内容等について

【作業班からの報告】

事務局より、8/29(水)に行われた作業班において、令和元年度宝塚市協働の指針市民説明会及び(仮称)宝塚市協働のまちづくり推進条例素案修正案について意見交換を行った旨報告した。

また、10/6(日)開催の「地域活動における男女共同参画を学ぼう 宝塚市協働の指針市民説明会」における宝塚市協働の指針の説明者について飯室委員に行っていたことを決定した旨報告した。

【素案修正案について】

事務局より、素案修正案について、配布資料に基づき説明を行った。意見の内容は以下のとおり。

ア 第1条の「市民と市の協働のまちづくりを推進」の箇所について、「地域コミュニティ」は記載しなかったのはどういう理由だったか改めて教えてほしい。

イ (事務局) 宝塚市まちづくり基本条例では第1条の目的で「市民と市の協働のまちづくりを推進」と記載されている中で、同条例第3条で市民の主體的なまちづくり活動という部分と地域コミュニティの活動について分けて記載しているため、(仮称)宝塚市協働のまちづくり推進条例においても、目的の記載としては「市民と市の協働のまちづくりを推進」という記載にとどまるものだと考えている。また、「地域コミュニティ」を構成する方々も基本的には市民なので、「市民と市の協働のまちづくりを推進」という表現は、地域コミュニティの推進をしないというものではない。

ウ (会長) 市民と市が協働する際、個人として市民が動くよりもある組織や団体を作った方が効果的かつ効率的になる。それが、市民活動団体でありコミュニティ組織であり、こういった組織や団体を通じて市民と市の協働を進めていくという理解をすれば矛盾はしていない。

エ 現状の第1条の記載では「協働に関する原則」を「促進する」と読めてしまう点が気になる。また、第3条の冒頭の文章に「各主体」という主語があるので、各原則の文章中にある「各主体」という文言が必要ないものもあると思う。次に、

第8条2項の「共有する意見交換に努める」という表現は違和感がある。最後に、第3条(4)の「活かす」は「生かす」とするのが正しいと思うので、法制担当にも確認してほしい。

オ (会長)「意見交換によって現状や課題を共有する」という順番にしてはどうか。事務局と作業班で検討してほしい。

カ (事務局) 今一度精査に努めたいと思う。

(2) 令和元年度 協働の指針市民説明会について

事務局より、市民説明会の概案について、配布資料に基づき説明を行った。意見の内容は以下のとおり。

ア 周知の方法について、幅広い領域の市民の方の参加を促すのであれば、これまでにない工夫をされてはどうか。以前、促進委員会のフェイスブックページのアカウントがあったと思うので、そこでイベントページを作成してシェアをしてもらえたらと思う。

イ キャッチフレーズがないと人が集まりにくいのではないか。

ウ (会長) キーワードを手掛かりに考えてもらえたらよい。協働があるからこそ、より地域福祉が進められるといったニュアンスだと思う。各地域に福祉施設やNPOがあるので、そういう方々とうまくつながれるかどうかが大切である。専門職の方もいるので、その方々の知恵や経験、ノウハウを活用していただけるような事例紹介になればよい。

エ まちづくり協議会の構成員には、事業者も入っている。周知の際に、専門職の方にもチラシが届いていくような方法が必要だと考えるので、社会福祉法人連絡協議会での配布もさせてもらえたらと思う。

オ (会長) 専門職の方のほうがより積極的に地域との連携を求めている。そこをつないでいけるきっかけにしてもらえたらよい。

カ (会長) 団塊の世代が後期高齢者になる2025年以降は、急激に介護や支援が必要な方が増えていく。地域の支え合いがないとたないと言われているので、どう地域連携で進めていけるかがテーマである。高齢化が進む地域は、誰と協働すればどんなことが展開できるのかという情報を共有してもらえたらよい。

キ (会長) 尼崎市では、園田地域で専門職の方が、地域で看取りをしようという会を結成し、地域の方と一緒に、死ぬまで自宅で暮らし続けることができる地域にしたいということを目指して取り組まれている。これは専門職の方が地域に呼びかけて行っている取組である。また、その会では、「もしばなゲーム」を行いながら、人生で最後に必要なものは何なのかを考えていたりもする。

ク パネルトーク後の参加者同士のディスカッションは、どのような形をイメージしているのか。

ケ (事務局) 教室型の席で話を聞いていただいた上、教室型の席のまま、隣の席の方などと話の内容を深めていただくことを想定している。

- コ 隣同士だけの話し合いでは、話があまり広がらないのではないかと。自分の興味のあるテーマの方で島型の席配置でディスカッションをしてもらった方がいろんな意見が出てくるのではないかと。
- サ 島型に分けると喋ることができない人が出てくるのではないかと。
- シ (会長)ここでいうディスカッションは意見交換と言うよりも今までの話を振り返ってみようということだと思ふ。少なくとも隣同士で話をすると、自分が喋ることによってこれまでの話を振り返ってもらう機会となる。
- ス ディスカッションで場を温めると、質疑応答で意見が出やすいのではないかと。

(3) 第3期まとめについて

事務局より、第3期まとめについて、配布資料に基づき説明を行った。意見の内容は以下のとおり。

- ア (会長)まちづくり計画の振り返りを通じ、まちづくり協議会のあり方を検討できないか。まちづくり計画見直しが落ち着いた段階で、まちづくり計画を横並びにした際、見えてくるものがあると思ふ。
- イ まちづくり計画を作った後の仕組みについて、誰がどう検証していくかということについてはこれからの論議となっている。この点を整理し、仕組みを考えるのも促進委員会で検討する必要があるのではないかと。
- ウ (会長)総合計画側と役割分担するならば、基本構想を実現するためにまちづくり計画が作られていっているわけなので、それがちゃんと基本構想を進めているかどうかは総合計画側の検証で、促進委員会側の検証はそれを協働で進めることができているかの検証をしていくという役割分担だと思ふ。次の総合計画の柱も協働になると思ふが、その協働が進んで行っているのかどうか。特に今回はまちづくり計画をパートナー側の計画として組み込んだわけだから、その協働の仕組みが本当にうまく進む中でつながっていているかの検証はこちら側になると思ふ。そこの役割分担を次期委員と一緒に考えていくことになると思ふ。
- エ 協働のマニュアルを3年ごとに見直すとするが、どこかに記載されているのか。
- オ (事務局)協働のマニュアルの中に記載がある。
- カ 第3期まとめの2、3ページの表に人数の合計欄を追加してはどうか。
- キ (会長)今いただいた意見をまとめて、第4期の申し送り事項とする。後は事務局と私にお任せいただくということでよいか。(異議なし)ではそうさせていただきます。

4 その他

- (1) 事務局より、宝塚市協働の指針市民説明会「地域活動における男女共同参画を学ぼう」について案内を行った。
- (2) 事務局より、宝塚市自治会ネットワーク会議より「宝塚市まちづくり協議会条例化素案についてのお尋ね」の提出があったことについて報告した。

(3) 第3期の締めくくりとして、各委員より一言ずつ挨拶を行った。

5 閉会

以上